

名誉会員追悼



故 名誉会員 塚本富士夫 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元日本金属工業(株)会長、工学博士塚本富士夫氏は、平成18年6月16日、ご逝去されました。享年87歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和16年東京帝国大学工学部冶金学科卒業、17年海軍技術科士官に任官、終戦により退官、21年日本金属工業(株)入社、取締役相模原工場長、同管理部長、同建設部長を歴任し、常務取締役、専務取締役を経て、昭和50年代表取締役社長、昭和58年代表取締役会長に就任した後、同社相談役等を務められました。

氏は、大学卒業以来一貫してステンレス鋼の研究、製造技術の開発、改善、品質の向上ならびに新鋼種の開発に携わり、わが国のステンレス鋼の技術を世界のトップレベルに進歩発展させることに貢献されました。昭和45年に同社相模原製造所にステッセルミルを導入し、熱延工場を稼働させることにより、普通鋼設備に依存しないステンレス鋼の一貫体制を確立させました。また、氏は、AOD精錬炉が海外においても15トン以下の小規模で実験的に行われたに過ぎなかった昭和46年に、世界で初めて、ステンレス鋼精錬用に60トン規模のAOD炉を相模原製造所に設置し、技術上の困難を克服し、その有効性を実証しました。これによって高炭素廉価原料を大量消費できる道を切り拓かれ、その後の世界のステンレス鋼製造におけるAOD炉設置ブームの先鞭をつけられました。また、氏はステンレス鋼製造における連続铸造方式の優位性についても、早くから着目され、今日、ステンレス鋼の主な生産方式となっている「電気炉—AOD—連铸」方式をいち早く確立されました。続いて、昭和47年、これらの成果をもとに初の100%連铸方式の量産型新製造所、衣浦製造所(愛知県碧南市)を建設し、独創性あふれる設備レイアウトにより高生産性を実現させ、世界的にも高く評価され、その後のステンレス鋼生産工場の模範になりました。

氏は、多年、耐熱ステンレス鋼の基礎・応用研究を行ない、その性能向上・生産性改善に多大な寄与をされました。また、長期的視野に立ち、ニッケル資源を節減する目的と応力腐食割れ対策の目的をもち、耐食性、加工性に優れた極低炭素、極低窒素高純度フェライト系ステンレス鋼の研究を推進され、いち早くその量産化に成功され、この分野における需要開発に大きく貢献されました。

氏は、広い国際的な視野のもと、ドイツ、米国、スウェーデンのメーカーと技術交流制度を設け、相互に技術力向上を図ると共に、諸外国へステッセルミルや連続铸造の技術指導を行い、国際交流に貢献されました。

また、昭和57年に日本におけるステンレス鋼の技術の発展を集大成する「ステンレス鋼技術史」の編集刊行を推進され、本刊行物はその後の技術開発の指針に役立っています。

以上の業績により、本会から昭和36年には渡辺義介記念賞、54年には渡辺三郎賞を、60年には渡辺義介賞を受賞され、本会の評議員を7期歴任し、平成元年には名誉会員に推挙されました。また、昭和55年には藍綬褒章、昭和63年には勲三等瑞宝章を授与されています。

氏が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成18年8月

日本鉄鋼協会 会長 浅井 滋生